

第13期 社会教育委員の会議（第8回） 会議録

● 開催日時 令和4年5月20日（金） 午後2時00分～3時58分

● 会場 教育委員会室

● 出席者

社会教育委員（6人）

大島 英樹	野川 春夫	竹高 京子
工藤 宜	鈴木 弥生	風澤 明子

事務局職員（4人）

葛飾区教育委員会事務局参事、生涯学習課長	佐藤 秀夫
生涯学習課学び支援係長	佐藤 吉裕
生涯学習課学び支援係（社会教育主事）	与儀 睦美
生涯学習課学び支援係	黒澤 幸恵

オブザーバー（2人）

生涯スポーツ課長	柿澤 幹夫
生涯スポーツ課事業係長	張替 武雄

出席者 計12人

次第

1 教育次長挨拶

2 議事

- (1) 令和4年度葛飾区教育振興基本計画推進委員会委員及び、葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会委員の推薦
- (2) 外部講師研修の振り返り
- (3) 生涯学習課の取組
- (4) 報告書の構成について
- (5) 今後の会議の進行について
- (6) その他

【配付資料】

- 第7回議事録案
- 令和4年度葛飾区教育振興基本計画推進委員会委員、葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会委員 推薦依頼文(写)[資料1]
- 令和2・3年度生涯学習課事業一覧[資料2]
- 報告書の構成案[資料3]
- 第13期社会教育委員の会議スケジュール案[資料4]
- かつしかの文化財第103号
- 文化協会だよりNo.43
- かつしか区民大学情報誌 まなびぶらす Vol.31
- 関係事業チラシ(生涯学習援助制度、出前教室、わがまち楽習会、そうさく教室、初心者体験講習会、区民大学講座チラシ)

— 開会 —

○事務局 皆様、こんにちは。ただいまから第8回社会教育委員の会議を始めさせてい

たきます。

本日、欠席のご連絡をいただいている委員は熊谷委員です。出席されている風澤委員でございますけれども、会議がありまして、3時半頃退席されるということです。それから、生涯スポーツ課長と事業係長は、公務の関係で遅れて出席します。

本日は傍聴者の方が1名いらっしゃいます。ただいまから入っていただきます。

初めに、4月から教育委員会教育次長となりました中島よりご挨拶を申し上げます。

1 教育次長挨拶

○中島次長 皆様こんにちは。本年4月に教育次長に着任いたしました中島でございます。よろしくお願いいたします。

委員各位におかれましては、これまで3年間にわたって本区の社会教育振興にご尽力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、本区の社会教育委員制度は、現在第13期目を迎えておりますが、今期は「社会の急変を契機として、これからの生涯学習と生涯スポーツを考える」をテーマにご協議を頂いていると伺っております。

昨今の新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大はまさに社会の急変をもたらし、長引くコロナ禍の中でそれぞれの地域における文化活動や生涯学習活動、スポーツ活動など、学びの環境は大変大きな制約を受けてまいりました。

しかしながら、その一方では、オンラインの活用等新しい手法、取組も進んでまいりました。申すまでもなく、生涯にわたってその人に合った方法で学び続けるということは、その人らしく生き生きとした人生を送るということに直結し、非常に重要なことでございます。委員各位におかれましては、十分な意見交換の下、将来を見据えたご示唆を頂ければと存じます。

私どもといたしましても、今年度まとめていただくものをしっかりと受け止めて、今後の教育行政に生かしてまいりたいと考えております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局 中島教育次長は本日、公務がありますので、ここで退席をします。

○中島次長 申し訳ございません。では、よろしくお願いいたします。失礼いたします。

○事務局 次に、本年度から生涯学習課長となりました佐藤よりご挨拶を申し上げます。

○佐藤生涯学習課長 改めまして、こんにちは。4月から生涯学習課長となりました佐藤秀夫と申します。よろしくお願いいたします。

今、次長からもお話がありましたが、社会教育委員の皆様におかれましては、これま

で様々なテーマでご意見を頂きながら、提言となるものをおまとめいただいていると認識しております。本当にありがとうございます。

今回のこの13期のテーマにつきましても、現在のコロナの状況を踏まえた形のものになっているということで、検討を続けていただいております。このコロナ禍においては、これまでのようにスムーズな進行がなかなかできないという部分もありますけれども、皆様から頂いた葛飾区への教育行政への提言、ご意見等については、次長も申しておりましたが、これからの教育行政に生かしていきたいと考えてございますので、ぜひご理解とご協力のほどをよろしくお願ひしたいと思います。

簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○事務局 ただいま、生涯スポーツ課長と係長が参りました。

それでは、本日の資料の説明をさせていただきます。

お手元に、前回第7回の会議録があるかと思ひます。こちらにつきましても、ご確認の上、修正箇所がありましたら、5月31日火曜日までに事務局までお知らせください。今、お配りしております会議録につきましても、まだ確定したものではございませんので、取扱いにご注意いただきたいと思います。

そのほか配付資料ですが、資料2は、今日の生涯学習課の取組の紹介のための資料です。資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料2-4と、中で分かれております。

資料3は、議長から提供いただいた資料です。「報告書の会議記録の構成について」ということです。

そのほかいろいろな事業関係のお知らせ等をお渡ししております。年度当初ですので、生涯学習援助制度や出前教室、わがまち楽習会を、実施していただける団体を募集するチラシが置かれているかと思ひます。資料については以上でございます。

それでは、この後の議事は大島議長に進行をお願ひいたします。

2 議 事

(1) 令和4年度葛飾区教育振興基本計画推進委員会委員及び、 葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会委員の推薦

○議長 皆さん、改めまして、こんにちは。今回は3月ということでしたので、一月の間が空きましたが、4月に正副議長会を開催させていただきまして、今日の後半の記録の構成の提案につなげていきたいと考えております。

今日は、お手元の次第にありますとおり、たくさん議題が並んでいますので、一つひ

とつ進めていければと思います。

では、早速ですけれども、1番目、「令和4年度葛飾区教育振興基本計画推進委員会委員及び、葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会委員の推薦」についてということですが、お手元の資料1を御覧ください。先ほど事務局から説明いただいたものですが、今2つの委員について、この社会教育委員のメンバーから推薦をせよという依頼状が届いたところですが、これまでも委員の皆様から選出いただいて、お引き受けいただいていたところですが、今回もこれまでお引き受けいただいていたお二方にお願ひできればと思うのですが。

資料1の策定検討委員会の委員に竹高委員さん。裏になる基本計画推進委員会の委員に大畑委員さんにお願ひしたと考えておりますが、委員の皆様、ご意見等ございますか。今までと役割を交代するお二方の委員さんからは何かコメントはありますでしょうか。

○竹高委員 すみません、私が今度お引き受けすると、令和6年3月までになるようなのですが、この第13期社会教育委員は令和5年3月で終わりますが、それはどうなるのでしょうか。

○事務局 策定検討委員会委員は同じ方に引き続きやっていただきたいのですが、社会教育委員の会議と任期がずれてしまっていますので、1年後にご相談させていただきたいと思います。

○竹高委員 分かりました。

○議長 ありがとうございます。では、大畑委員さんもよろしいでしょうか。

○大畑委員 はい。

○議長 ありがとうございます。そうしたら、皆さんご異存なければ、お二方に就任いただければと思います。この会議からの推薦という形になるということなので、メンバーの交代ということが起こり得るかもしれないということをお含みおきいただければと思います。

皆さん、どうもありがとうございました。

(2) 外部講師研修の振り返り

では、続いて、2番目の「外部講師研修の振り返り」に進みたいと思います。こちら3月に実施したものになりますので少し間が空いてしまっていますが、お手元にちょうど会議録の案もありますので、少し思い出しながらご感想等をお話しいただければと思います。

僕も当日の荒井先生の配付資料を読み返しながらいろいろ考えていたのですが、

いかがでしょうか、どんな点からでも。

○竹高委員 今、文字になったものを見ると、お話しただいていた内容と違って、いるようなイメージでもあり、すごく幅が広いお話だったので、何を主としてお話を進めていただいたのかというのが、この文章ではつかみづらいです。ただ、やはり社会教育の面だとか学生さんの意見だとか、自分でも相当メモをしてあるのですが、その中で特にこれだけというものがなかったように思えて、全体として大きい話になっているという印象を受けました。すみません。

○議長 いろいろなレクチャーのタイプがあって、手元に渡してくださるものを基にして、その下で話されることが全然違うところに行くタイプの方と、僕なんかそういうのができないたちなので、書いてきたことをそのまま書いてきたように分かってもらいたくてという話をしてしまうタイプですが、荒井先生は、その文字の上に乗せる言葉がたくさんおありだったので、非常にポージングがあったかなと思うのですよね。

逆に、お渡しいただいた文字だけ見ていたら、いくつか強調点というのが僕はすっかりしたなという気がしていたのですね。復習みたいなのをしたら。それを少しお話ししてもよろしいですか。

1点目は、当日の配付資料があれば見ていただければと思うのですがけれども、1番目とか4番目というところに出てくる「対面の価値」というところは、繰り返しお話しただいていたところなのかなと思います。会うな、集まるな、ということの中でも対面ということがあると、やはりそこにとっても良い価値が感じられるということが形を変えて繰り返されていたのではないかと、というのが1点ですね。

それから2点目は、資料でいくと3番目のところですね。DX、「デジタルトランス・フォーメーション」ということが項目としては1つになっていますけれども、改めて宿題として渡されているのかなと思いました。というのは、その「対面の価値」を守ると同時に、しなくていい対面はしないという方向に、これから進むのではないかと、というのがあって、そのときにはいろいろな技術が必要になるだろうということを書かれていた。あるいはそこを基に話されていた部分ではないかというのが2点目。

それから3点目は、「棚卸し」のタイミングということなのですが、項目というのではないのですが、これまでコロナが起きなかったら改めて問い直すことはなかったかもしれないところを、急にブレーキがかかった中で、今までやっていたことを見直す必要が出てきたというところで、様々なことを考えるきっかけになっているわけです。そういう「棚卸し」というのをしっかりとやりましょう、ということなのかなと思っていて、そのことは、僕らもこの会議で記録にまとめようということで、お話としてつながってくるのではないかな、と思います。「対面の価値」、それから「デジタルトラン

ス・フォーメーション」、そして「棚卸し」、そんなことをご指摘いただいていたのではないかなと改めて思ったわけです。

○竹高委員 お話を伺っていて、今だんだん記憶が戻ってきたのですけれども、それと言うと、この資料の中の7ですか、やはり「身近な施設と信頼できる職員を守り育てることの価値」というのは、昔からそういうふうに皆さんが思っていたことを、言葉ではっきりと表現していただいたのが印象深かったです。

いずれにしても、このコロナ禍になっても、コミュニケーションを取ることの大切さと言いますか、全般において、オンラインで済むものはオンラインでと進むとは思いますが、そうではなくて「つながっていくことの意味」というのも重要なのだ、ということがあったと思います。

○議長 ありがとうございます。「身近な施設と信頼できる職員を守り育てることの価値」と書いてありますね。この点は、ずっとこのコロナがスタートしたときから、社会教育行政と学校教育の対比のようなところでも繰り返し僕らが気にしてきたところではないかなと思います。本当に多くの人にとって学校というところは身近な施設の代表的なところでもあるし、何しろ閉めない工夫というところで、風澤先生はじめ学校の皆さんはいろいろなお尽力されてきたところだと思います。それが社会教育行政では、なかなか見えにくいし、語られないと知らないままになってしまうところを、これまでそれぞれの担当者の方たちから聞いてきたということなのかなと思いますよね。

そういったところを、記録の中できちんと強調できたらいいのかなと思います。いかがでしょうか。なかなか言語化するの難しいところなのかもしれませんが、お話を踏まえて今後のまとめにも活かしていただければなと思いますが、野川先生、よろしいですか。

○副議長 私のほうは2つ感じた点がありました。1つは、専門職員というか専門の人間をきちんと育てて配置しなければいけないことは分かっているながらも、人件費が最近非常に高いので、その人を専任で雇用して充てるということをいろいろな部署でやっていると、多分行政は予算が回らないので、任期制になってきた。雇用の流動化というお話をされていて、それは都立大でも起こっているということでしたが、都立大だけのことでなくて、いろいろなところで今影響し始めています。そのため、アイデンティティが低くなるとか、幾つか問題が出てくるので、この「雇用」を社会教育の中でどう考えるかという点が、1つ感じた点です。

もう1つは、今日と昨日2回続けてオンラインの会議を2つとか3つこなしてから来るわけですね。そうすると、だんだん自分が外に出なくなって、ヒューマンタッチする必要がなくなってきました。話はしますがそこから先の広がりというような、お互いに知

恵を出し合いながら新しい知識の共有というところが阻害されるのではないかと感じます。AIを使えばそれで何とかできるのか、という非常に大きな質問がこれから多分出てくるのではないかと、という感じを抱きます。

○議長 1つ目の「専門職員の大切さ」というのは、狭い意味での生涯学習課の部分だけでなく、社会教育行政を見ても、図書館や博物館にも法律に基づいた専門の職員がいるわけです。学校も「チーム学校」と言いながら、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの人たちはなかなかフルタイムになりにくい状況があります。そうすると余計にこのコロナ以降ではどうなるのか、という話が出てくるかと思うのです。そのためにも、できた事業、できなかった事業、また、これからやるべき事業というようなところも、しっかりと検証していけるといいのかなと、今の野川先生のご指摘から思いました。

それから、非対面というのが話の広がりには限界を感じさせるということですが、これも皆さんそれぞれいろいろなところで感じられているのではないかなと思うのです。僕は、違う言葉で言うと、「効率的過ぎる」という言い方でいつも捉えているのですね。テーマにしたことだけはすごい密度で進むのですが、そこからはみ出すことは全然タッチできない。対面していれば、一息ふつとしたときに余計なことがしゃべれるのですけれど、オンラインの中で余計なことしゃべるとカオスになってしまうので、的を絞ったものしか話せないところで、全然膨らみが出ないのかなと思うのです。

○大畑委員 この会に出てなかったのですが、内容は分からないのですが、オンラインのことでは私もそう思うのです。テーマが決まって、そのテーマだけの話をするのであれば、一人でしゃべっていて、周りの人が聞いていて、それで通用するのですけれども。雑談的な話というと、誰を対象にしているのか、対面していれば顔を見ただけで「ああ、この人に振っているな」とか分かるので、いろいろな話を出せるのですが、オンラインではそうはいかない。ある意味で一方通行的な会議になってしまうと感じます。

だから、企業であればいいかもしれないのですが、こういう社会教育みたいな、いろいろな人の気持ち、いろいろな感じ方を大切にしなければいけない会議にはあまりふさわしくないような気がします。

○議長 ありがとうございます。ぜひこの辺りは、後でお話しします「記録」というところでも、委員の皆さんからのご意見ということでうまくまとめていけるといいかなと思っています。

では、いったん2番目の「外部講師研修の振り返り」は以上とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

(3) 生涯学習課の取組

では、早速ですけれども、3番目の「生涯学習課の取組」についてということで、ご報告をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○生涯学習課学び支援係長 生涯学習課学び支援係長の佐藤と申します。私からは生涯学習課の取組についてということで、生涯学習課では郷土と天文の博物館も所管していますけれども、以前に博物館については報告を頂いていますので、それ以外の3つの係についてのお話をさせていただきたいと思います。

資料としましては、先ほど事務局から話があったように、資料2-1から資料2-4までということで番号が振ってございます。基本的にはそれぞれ係ごとにまとめている形です。

皆様もご存じのとおり、生涯学習課の事業は非常に幅広く行っておりまして、区民を対象にした講演会やイベントもございまして、区民団体の皆さんと協働で行っている事業もあります。

そういう中で、資料2-1生涯学習係の事業一覧を御覧ください。生涯学習係が所管している事業は主に区民団体の皆さんと協働して行っている事業となっております。右側から、令和元年度から3年度までの事業の推移ということで書かせていただいておりますけれども、区民総合芸術祭典、例年6月に開催しているもの、それから合唱祭、渡辺明杯かつしか子ども将棋大会、裏面へ行きまして、葛飾区区民文化祭、かつしか郷土かるたの普及・啓発、堀切大凧上げ大会、地域教育機関連携事業ということで、その後の社会同和教育事業まで資料としてはありますが、1つ漏れておりまして、「かつしか進路フェア」というのも生涯学習係で所管をしておりますが、これは口頭で後ほどご説明をさせていただきます。

資料の1枚目を御覧いただくと、このコロナ禍で、やはり区民団体の皆さんと一緒に進む事業については、文化協会や合唱連盟などの構成メンバーの年齢が非常に高い団体となっていて、団体それぞれの活動自体もコロナ禍ではなかなか難しい状況の中で、総合芸術祭典であるとか合唱祭であるとかこういった事業、それぞれの団体の皆さんの発表の場ということで実際に開催しているわけですけれども、なかなか開催が難しく、令和元年度から3年度まで基本的には中止という形で推移してまいりました。

合唱祭についてはシンフォニーヒルズを会場に行っている事業ですが、令和3年度に改修工事があり、令和2年度に令和2年度分と3年度分の両方やる予定でしたが、令和2年度はご存じのとおり、コロナ禍真ただ中ということで、実際にはこの2年分開催できませんでした。

渡辺明杯かつしか子ども将棋大会は、棋士の渡辺明さんが葛飾出身ということもあって、子どもたちを対象とした将棋大会ですが、2年度、3年度は中止という状況になっております。

区民文化祭については、合唱連盟と文化協会それぞれ2つの団体と共催で行っているもので、その中のフリーステージでは区民の団体の皆さんを公募して、例えばマジックや様々な種目で発表していただく機会を設けて行っているものですが、令和3年度についてはすべて中止せざるを得ない状況でした。ただ、令和元年度と2年度については、フリーステージの部分は開催できました。

3ページ目のかつしか郷土かるたの普及・啓発は、子どもたちが実際に対面で競技を行うことは、密になってしまうとか、接触することが想定されるということで、全区競技大会は3年続けて中止という形になっております。ただ、全区競技大会の前段階である地区ごとの競技大会については、各地区の青少年育成地区委員会の皆さんの協力も得ながら、地区によっては実施しました。かるたの普及・啓発に関わる部分では、切り絵でできている原画の展示を、令和元年度から3年度に実施しました。

堀切大凧上げ大会については、実行委員会によって、堀切中学校1・2年生による凧上げ、一般の凧上げ、それから様々なイベントとして行っているものですが、学校とのやり取りの中で子どもたちを参加させることは難しいということで、令和2年度については中止、令和3年度は荒川の河川敷では難しいけれども中学校の校庭でやったらどうかということで、規模を縮小して中学校の校庭で実施をしたという状況です。

「オドロキ科学箱」は、区内にあります東京理科大学との連携事業として、学生団体の「みらい研究室」というところと協定を結んで、子どもたちに科学の楽しさを体験していただくという事業です。この事業については、令和元年度、2年度は中止をしたのですが、令和3年度は年度末の3月に理科大の協力を得て、何とか実施しました。事前予約制で人数を制限し、コロナ対策をして行うことができました。

裏面に行きまして、社会同和教育事業です。イベントを通じて人権理解を深めるということで、部落解放同盟葛飾支部との共催で様々な事業を行っています。この3年間、コロナの流行状況を見ながら実施の判断をしてきました。キャンプは、緊急事態宣言が発令されていた時期だったので実施できませんでしたが、それ以外の女性子どもレクリエーションなどについては、感染対策をしながら3年度については実施しました。

それから、資料が漏れておりますけれども、先ほど申し上げたかつしか進路フェアは、中学生が高校進学をする際の参考にしていただくために、都内の公私立高校の方々に協力をしていただいて、資料を配布したり、入学に関する相談を受けてもらうというものです。テクノプラザや南葛飾高校を会場にしていたのですが、子どもたちのコロナ感染

予防のため、令和3年度について中止の方向も考えたのですけれども、何とか開催したいということで、講演会形式の開催ということで、ファイナンシャルプランナーの方に講師になっていただいて、お金の運用の仕方やお金の使い方について、学んでいただく講演と、元学校長の方の講演とのセットで講演会を行いました。

それから、区民大学係と学び支援係についてなのですけれども、まず、これまでのコロナ禍での事業の展開の仕方について簡単にご説明をしたいと思います。

この間、生涯学習課としては、「区民の学びを止めない」ということで、オンラインでの講座の開催であるとか、意見交換の場も必要な講座については対面とオンラインのハイブリッドでやろうという工夫ですとか、それから講座の内容を当日オンラインで見てもらうだけではなくて、後日改めて見てもらうような形は取れないかとか、いわゆるオンラインを活用して区民の学びを止めない工夫を幾つかしてきています。

区民大学のほう、資料2-2を御覧ください。これがかつしか区民大学の講座の一覧になっています。かつしか区民大学は生涯学習課の事業だけで成立しているわけではなくて、葛飾区役所全体で区民向けに実施している講座をかつしか区民大学という学びの仕組みとして展開しているもので、資料の左から3番目の講座番号で45番まで、45講座なのですけれども、実際には令和3年度については、区民大学全体では113講座実施しています。そのうち、生涯学習課が関わっている事業が45あるということです。

それぞれの事業を見ていただくと、「会場」のところに、オンラインで実施したものは「オンライン」という表記がされています。講座番号で、1枚目は4番、14番、15番がオンラインで実施をしたものです。2枚目では19番、20番。3枚目では37、43、44、45番です。「オンライン」についても、講座によっては対面とハイブリッドでやっているものもありますし、講演会は当日オンデマンドでやっているものだけではなくて、後日見られるようにYouTubeで配信したという例があります。

生涯学習課は区役所の中でも少し先を行っているというか、誰でも見ることができる葛飾区の公式YouTubeチャンネルがあるのですが、講座の中身については限定公開という形で希望者にURLを配布して、後日この期間見られますよというやり方をそのチャンネルの中でやろうということで、区の公式YouTubeチャンネルのほかに生涯学習課の公式YouTubeチャンネルを作りました。そこにURLを送られた方がアクセスをすると動画が見られるという工夫をして、令和3年度は生涯学習課の公式YouTubeチャンネルからは、ライブ配信を1講座とオンデマンドの配信を2講座実施しました。具体的には、4番の北島尚志講演会については、「オンライン」とありますが、これはオンデマンドでライブ配信しました。それから東京聖栄大学の19番は限定公開です。このように、「オンライン」といってもいろいろな形で実施をしてきて

います。

資料2-3は、学び支援系の事業になります。先ほどのオンラインに関わる部分で言うと、上から3つ目の団体・サークル支援講座、これについては、実際に先生の話の聞いたりということだけだと、参加する方々が意見を言ったり交流したりとか、そういったことができないので、Zoomを使ってやっているのですけれども、Zoomの中で実際にオンラインで参加した人も会場に来た人と意見交換ができるように、工夫をしながら進めています。

その下にありますZoom操作体験会というのも新たに取り組んでいて、団体・サークル支援講座に参加している方々は、それぞれ団体を背負って参加しているわけですが、団体に戻ったときに、団体の会員の皆さんで例えばZoomを活用してオンラインで会議をやったりとか、何かイベントをやったりということにも活用していただきたいということで、Zoomの操作方法を学んでいただくような体験会を実施しています。実際には、見学に行きました足立区の生涯学習センターでやっているZoom体験講習会の内容を参考にさせていただいて実施したものです。

それから、コロナ禍の影響で言うと、資料2-3の一番上にあるかつしか教室という知的障害者の学級ですが、ここに参加をしている方を「学級生」と呼んでいますけれども、学級生の方々は、日頃、就労ですとかのストレスを解消するために非常に楽しみに毎月1回参加しているのですが、実際に持病をお持ちの方も多いため、やはりリスクが高いということで、どんなプログラムが用意できて、どんな形で展開したらいいかというのは担当のほうでも非常に悩みつつ実施しました。令和2年度・3年度とも、コロナ前のように開催ができずに、一部制限を加えて、人数の制限ですとか、それから内容の制限ですとか、そういったものを加えて、何とか実施できないかということで工夫をして開催している実態があります。

学び支援係としては、社会教育関係団体の支援ということで、わがまち楽習会や生涯学習援助制度、出前教室という事業も行っていますが、実際にはコロナ前の状況と比べると申請してくる団体は非常に少なかったかなと思っています。

それ以外にも、例えば資料2-3の裏面ですけれども、学び交流館を利用している団体の皆さんの支援ということで、初心者体験講習会ですとか、交流と発表の場としての交流館まつりも行っていましたが、コロナ禍で団体活動自体が非常に停滞したと言うか、なかなか活動できない状況の中では中止せざるを得ない状況もありました。また、学び交流館で実施している、スポーツ開放事業のふれあいスポーツという事業も、一部中止しました。

そういう中では、オンラインに関する部分で言うと、先ほどお話しした団体・サーク

ル支援講座以外にも、HIPHOP教室やNPOとの協働による子ども文化芸術教室についてもオンラインで実施しました。

また、3ページ目の上から2番目、子ども食育クッキングについてですが、学び交流館などの公共施設は、通常の会議室は何とか使えるようになって、料理実習室が使えない状況がこの2年間続いてきましたので、講座としてはできませんでした。もちろん、その場でおいしいねと食べてもらうのも大事なのですが、食育クッキングで我々がしてほしいことは、実際にご家庭に戻られたときに、そのレシピを利用して家族みんなでおいしく食べるということで、動画を作成して、ぜひそれを活用していただきたいということで、区の公式YouTubeチャンネルに動画配信して、それを見ていただくということをしました。再生回数は、数百ぐらいが多い中、この子ども食育クッキングは4,000ビュー以上視聴されていて、非常に需要が高いというか、みんなに見ていただいて、しかもそのレシピを使って「こんなの作りましたよ」という写真を投稿していただいて、そんなやり取りもしながら展開をしてきています。

それ以外にも、そうさく教室など様々な事業を行っていますが、詳しくは一覧を御覧いただければと思います。

それと、資料2-4ですけれども、これは学び支援係でコロナが始まった頃に作った「事業実施のロードマップ」です。たとえば、緊急事態宣言が発令されたときはどうするよ、ということをもとめた資料になっています。少し古い資料になっていますが。

いずれにしても、コロナだから事業をやめよう、というのではなくて、何とか事業が実施できるように工夫をしながらやっということうことで、こういったロードマップも立てながら事業を実施してきたという状況でございます。

ざっくりですが、あとはご質問を頂ければと思います。

○議長 ありがとうございます。ふだんはこの会議の進行にご尽力いただいてお世話をくださっている姿ですけれども、今、お話伺って、ご担当されている事業の様子というのが具体的に見えるかなと思います。

それでは、委員の皆様、まずは事実確認のようなご質問からでもよろしいかと思いますが、どなたかいかがでしょうか。

○竹高委員 すみません、いつもお世話になっております。区民大学のほうで私が所属している団体もお世話になっているのですが、コロナ禍で、もう2年間にわたって講師の手配までしていながら中止になっています。これらの講座をやった中で、そこでコロナにかかってしまいましたという報告があった講演会というのはあったのでしょうか。

○生涯学習課学び支援係長 私が知る限りはございません。

○竹高委員 そうですか。

○生涯学習課学び支援係長 感染対策については、特に大きな講演会はその追跡ができるように、座席指定をして番号を振り「あなたはここ」と座ってもらう工夫も、全てではないですが、しています。そういう中で、「感染しました」という報告は受けてないと思います。

○竹高委員 よかったです。ありがとうございます。

○鈴木委員 私の会社でも美術講座をやっているんですけど、先日見てみまして、お部屋でやっていたときは確かに楽しく2時間近く聞いたのですが、家でそれをまた見ようとしたら、ちょっと見ただけで疲れてきてしまって、途中で切ってしまったのです。オンラインでやったときに、皆さんの反応とか、感想はどうでしたでしょうか。

○事務局 そうですね、結構厳しいですね。例えば、オンラインで一生懸命やった団体・サークル支援講座は、2年次にわたってオンラインと会場とのハイブリッド方式でやりまして、オンラインの方もグループ分けしてグループ討議をやらしてもらったり、オンラインの方から会場の講師に向かって質問を投げさせていただいたりとか、そういう工夫をかなり手厚くしてやったつもりだったのです。会場の方はすごく集中している感じでしたが、オンラインの方は集中力が続かなかつたり、もしかしたら時々こちらの声が途切れたり小さくなってしまっていたのかもしれないのですけれども、聞き取れてないのかな、ということもありました。グループ討議でも、「では今度これを話し合ってください」と言っても、1回では伝わってないのかな、という場面も結構ありました。

最後にいただいた感想文も、「オンラインでもこうやってできてよかった」という前向きな感想もありましたが、一方で「オンラインでやってみただけでも、なかなか内容的に入ってこない」とか「厳しかった」という感想がありました。

3月の荒井先生のお話の中でもあったのですけれども、「予期しなかった収穫」といったものが、会場ではありました。会場参加の方ですと、雰囲気だとか、別の方の発言したことに対してすぐに対応するということが見られます。例えば、ある方が「実は、私は少し目が不自由だけれども、花作りが好きで、そういうサークルに入りたいんだ」という発言を最後のほうにされたら、すぐそういったサークルを知っている方が声をかけたりとか、予想していた学習目標ではないけれども、付随して輪が広がるというようなことがあって、実際にその方は、サークル活動に参加してみたり、ご自分の家の近くでそういう花作りの活動を続けたりと、活動が発展したのです。そういうことがやはりオンラインだと少ないかなと思います。

○鈴木委員 もしかしたら、長さにもよるかもしれません。短めだったら集中して楽しめるかもしれませんが、長くなるともたないかもしれません。リアルタイムならまだよいかもしれませんが、私はYouTubeか何かに「古いのを載せたから、見て

ね」と言われて、見始めたら、もう10分ぐらいしか持ちませんでした。

○大畑委員 うちの近くも「まちかど勉強会」という講演会を毎年やっていますが、今年度はYouTube配信を中心としたやり方でやってみたのですね。当日は、40人限定で広い会場の中でばらばらに座って、あとは後日編集してYouTubeに載せてみんなに見てもらおうということでやってみました。以前行った講演は、いろいろな事業の勉強の仕方の部分だったので、細かく切って見られたので、結構反応が多くて1,000以上まで行ったのですね。

今回は1時間ぐらいの、いろいろな問題をテーマとした講演だったのですが、それはやはりなかなか見続けられない。会場でリアルに聞いているときには非常に感銘も受けましたし、意見も言えたのですけれども、後で画面を立ち上げて見ると、10分、20分するともう目が疲れてきたような感じでした。現場で見ているときは声を聞きながら、見たいときぱぱっと見るだけで雰囲気がかめるのですけれども、ああいう画面の中だとしてどうしてもそこを見て集中していないと伝わってないような気がしてしまって、余計疲れてしまうのですよね。

だから、オンラインでやるときに、多くの人に見てもらうのであれば、10分、15分ぐらいで1つのまとまりができるような形の講演であると効果的なのかなと、それは感じました。

○生涯学習課学び支援係長 YouTubeの公開の仕方ですが、実際に編集作業をどうするかというところが1つ課題になっているのだと思うのです。区民大学係で、限定公開で講演内容を後日見ることができる内容にするときにも、編集をして見やすくする工夫をしたのですが、それは職員がやっているわけです。すると膨大な時間がかかるわけです。そのコストやスキル、そういったものが求められます。

ちなみに、食育クッキングの動画は外注して業者さんに作ってもらいました。それで多分、視聴者数が大きかったのだらうと思います。見やすい形になったので。やはりそういうところは、行政がこれからオンラインで事業を展開するときの1つの課題です。あとは通信環境ですね。会場となった場所の通信環境が悪いと、音は途切れる、画像は乱れるということになるので、そういう通信環境をどう整えるかという、公共施設の通信環境の在り方も考えないといけないという感じはします。

○議長 講座というものの、長い時間かけてできてきたスタンダードな長さとかが、生涯学習でもあって2時間とか、長いものでは3時間というのがあるけれども、それをそのまま動画にはとてもならないというところが、今はっきりしているのかなと思いますし、やはり動画で見るとき、「私」に向かって語られる、というのがないと、それはなかなか向かない。それを1時間とかやられたら、聞くほうも話すほうも息が詰まってし

まうということだと思うので、やはり対面しているというのは、「私たち」という自分に降りかかってこないときに上手に緊張が抜けてたりとかしているので、1時間、2時間いられたりとか、いろいろな要素に分解してみる必要が出てくるのでしょうか。そうしないと、「編集」と言われたことは、そういう能力を持った方がすごく求められてくるというか、難しいですね。役所の中にいるべきなのか、それこそ外注と言われたけれども、やるよ、と行ってくださるような方たちと一緒に何かできていくとすてきだなとは思っています。何かそういう事例とか、そういう講座とかないですか。動画を編集しよう、というような。

○生涯学習課学び支援係長 近隣の区でいうと、墨田区では実際にZoomやWebexを使ったオンライン講座の機器の準備の仕方であるとか、機器を提供するとか、動画を撮ってそれを編集するというのを地元のNPOの人たちと一緒にやっている、という例は聞きました。いわゆる民間の会社というのではなくて、NPOの人たちと一緒にやるというというのも1つありかなと思います。

○事務局 このコロナになる少し前ですけれども、川崎市で、ごく短いミニ映画のようなものを作って発信しようという講座をやったのを知って、葛飾区でもやりたいなど思ったので事業提案したことがあります。その時は駄目になってしまいましたが、講師もいるようなので、やろうと思えばできるかなと思います。

○大畑委員 もし講習等でいろいろな地区あって、こういう環境の中でやはりどうしても人を集めるリスクが大きくなってしまったときに、講演会など、みんなで共有する情報をうまく伝えたいという意味で、そういう作り方の勉強会みたいなのをやっていってもいいのではないかと思います。

例えば対話式で講演を取り入れていくとか、1人だけの話ではなくてね、そういう形のやり方だとか、30分ぐらいでまとまるようなテーマを幾つかに分けていったほうがいいとか、そういういろいろなアイデアと情報、そういう勉強会をさせてもらおうと、各地区委員会のメンバーも参加するところが出てくるのではないかと思います。

○生涯学習課学び支援係長 地区委員会研修会でやれたらいいですね。

○大畑委員 結構ほかの地区委員会でも、いろいろなYouTube配信やっているのですね。そうすると、学校の先生方がやってくれてやっているとか、そういう得意な人がいてくれるとやっているようなのだけれども、委員の皆さんの中で作っていかうとすると、なかなかいないから難しいのです。

○生涯学習課学び支援係長 そうだと思います。

○大畑委員 ぜひチャンスをください。

○生涯学習課学び支援係長 やりますか。

○副議長 こういう表現はあまりよくないかもしれないですけども、いわゆるオタクのような人たちを、上手に引っ張り出すというのは必要かもしれませんよね。

○竹高委員 今はオタクではなくて、若い子はそういう機器に関して早いので。携帯だけですぐ1本動画作って、自分のダンスをネットに上げたり、たくさんやっているの、逆にオタクじゃなくて、そういう人たちのほうが上手ですね。

○副議長 自己表現したがるから、上手にそういう人たちを引っ張り出すと、外注するよりもずっと早い。いわゆるコンペみたいなものですよ、ある意味で。

○議長 僕も今同じことを思いました。長いままだともうにも食いつけない、という素材を渡して、動画編集コンテストみたいなことをみんなでやってみようとなると、講座にすぐなるなと思って。

○副議長 ただ、いわゆる講習会をやろうとか、それから講義になってくると、あまり短くはできないのですよね。

集中力がどのくらい続くのか、今、だんだんみんな集中力がなくなっているのではないですか。学生たちも、画面の前にずっと座って見ることができないし、小学生とか中学生とか高校生に自宅で見なさい、とやること自体に、そういう耐久力とか根気みたいなのはなくなっているから、対面でやらざるを得なくなってくるという、また揺り戻しになるような気がするのですよね。

○生涯学習課学び支援係長 それはあると思います。

○副議長 講習会のほうも、どんどん短くしてくれと言われるのですけれども。そうすると、本当に……。

○生涯学習課学び支援係長 伝えたいことが伝えられないですよ。

○副議長 「教えました。あと、おまえ勉強しろ」となってしまうのですよね。「いや、勉強しに来ているのだから、教えろ」と言われても、何しろ30分以上やるともう頭が痛くなってしまふかもしれないということです。

○鈴木委員 あと説明される方が、淡々と資料を読まれているのか、いいことを言っているのですけれども強弱もないとか、アクションも何もないので、寝てしまうというのがあるので、先生方もそうかもしれませんけれども、どうやってメリハリつけるかとか、見てもらって集中してもらおうか、そういうところも力を入れないと駄目かもしれないなというのがあります。

○副議長 自分で授業やっていて、どういうふうにやってくれ、と言ってこないから、分からないのですよね、本当のことを言いますと。いろいろなやり方やって、「聞いてる?」、「いますか?」と聞いても、向こうに本当にいるかどうか分からないし。

○風澤委員 でも、そうになると、あれですよ、オンラインをすごく意識した構成とい

うか、演出というか、ただ、今までのものをただ撮って編集して流すというのと、発信側がすごくまた違う形で求められるものが出てくるのですね。

学校も、コロナのときにオンライン授業をしましたがけれど、教室で授業を普通に対面でやっている分には、ちょっと気持ちがそれた子は景色を見たり、自分の気持ちをちょっとどっかでリフレッシュさせてまた元に戻るみたいな、座っていながらも何か気持ちがあっち行ったりこっち行ったりする子もたまにいるわけなのですけども、やはりオンラインでそこだけ見ているというのはきついんです。あと発信する教員もきついんです。ですから最初はすごく抵抗感があって、チャレンジします、という感じで挑んでいたんですけども、やはり発信側もよほど磨きをかけていかないと、今までの事業をそのままどうぞ見てくださいとはいかず、なかなか課題は大きかったというか、今も大きいです。

○事務局 オンラインでやっている講座を見て、見やすい、集中しやすいなどというのは、主になる講師の人と、サブっぽい、でも知識も結構ある方がやり取りして進めていくというのがありました。10分ぐらいまとまって話したら、こちらの人が質問したり、やり取りをして、また10分ぐらい話したりという進め方をしていました。

○副議長 メリハリですね。

○事務局 そうですね、それは聞きやすかったですし、あと比較的聞きやすいのは、シンポジウム形式で、司会の人が出て、何人かの人が短めに10分ぐらいずつ話して、またもう1回話すとか、そういう構成だと、1人の人がずっとしゃべるのよりずっと聞きやすいかなと思います。

○副議長 そうすると、しゃべらないようになってしまいますね。東京都などからも、例えば「55分やってください」とか「60分やってください」と言われて、それでパワーポイントを作ったりするのですが、すごく手間かかるのです。そこにまた音楽を入れたり、誰かを入れて、チャチャを入れるというか漫才方式にしようとする、お金がかかってしまって費用対効果からするとほとんど入ってこない。今いろいろな大学の先生たち、ほんと困っていますよ。途中で出席をもう1回取り直すとか、それからテストをやるとか、いろいろなやり方を工夫しながら、どうやって学生たちを画面の前に居させるか。それをずっと1限から4限まで90分ずつとか取っている子たちは、もう修羅場ですよ。代返できないですからね。

○竹高委員 今、娘が自動車教習所に通っているんですけども、やはり学科のほうはオンラインなのだそうです。その学科は、そこで受けていることが向こうから見えるので、それで下を向いて寝ていたり何か別のことをやっていたら、その単位はは取れないことになるのだそうです。

○議長 すごいですね。

○竹高委員 チェックが結構厳しいので、きちんと聞いていなければいけないから1時間すごく疲れるみたいです。やはりオンラインも1時間以上は絶対無理ですね。「オンラインでできるから続けて取ろうかな」なんて最初は言っていましたが、もう「1日1つで十分、それ以上は無理」と言っていました。でも、そうやってやるからきちんと学習になるのでしょうかけれども、お金もらっているのに、向こうも学習させないと事故を起こしてしまうドライバーになってしまう。そんなところにも影響があるのですね。

○事務局 娘が大学の授業をオンラインで受けていて、大学の先生が手を挙げさせたり、「この4つの中から選びなさい」という問題を出したりして、すごく工夫しながらやっているのですけれども、後ろから聞いていたら、だんだん先生が怒り出してきて、学生の反応がいま一つなのか、イライラしているのがありありと分かりました。先生のほうもそうやって工夫して一生懸命やっているのに、何か学生さんたちがついてこないみたいな、そんな感じが見えていました。

○副議長 もう1点は、あちら側に誰がいるか実は分からなくてコントロールできない怖さがあるのですよね。下手なジョークとかは言えないわけですよ。学生さんの横にお母さんとかお父さんとかどなたかがいたりすると、「おい、こうこうだよ」なんて、こういう表現は一切できません。だから、やはりつらいですよね。相手のところもよく見えるようにすると本当はいいのですけれども、学生たちはほとんど自分たちの顔を隠していますから。だから、分からないのですよ、本当にいるのかいないのか、誰なのか。

今、個人情報で受講生の写真が手に入らないですから。もう本当に大変だと思います。そういう中でやっていこうとすると、まあいいところ5分か10分ですかね。

○生涯学習課学び支援係長 でも、有名なY o u T u b e rがうけている理由は、やはりそういう編集にしっかりお金かけてやっているのですよね。やはりそういうところなのだと思います。見やすい、分かりやすい、そういう技術なのだと思う。そういうのをどう区役所でも活用できるかということですよ。

○副議長 Y o u T u b e r養成講座。

○議長 そう思いますよね。

○副議長 データサイエンティストね。どんなのを作ったらいいか？

○議長 今年400人ぐらい取っている授業があるのです。だけど、オンラインと言っても、僕は動画はやらずに文通をしまして、資料だけのやり取りです。でも、かえって、それこそ「あなたに」という手紙として資料を渡すので、そうすると、「私に」と返してくれるというやり取りが思いがけず成り立ったりもしていて、手紙開けるだけで400回ということだから、それは地獄みたいですがけれども。でも、丁寧に語りかける言

葉と渡したかった事実の部分というのを、「はてしない物語」のように色をちょっと変えたりとか、工夫をしながらやっている、きちんと読んでくれていたりもして、本当にいろいろな形の編集技術というのを学ぶことが必要なのだなというのを感じているところなのです。

これは多分今回生涯学習課の事業のお話で聞いたことが、やはり一番、内容だけではなくて方法に対して意識を持てる場だと思って、ここでいろいろ学んだことというのは、もう1回いろいろな担当課のところに返していけると思うので、今日お話いただいたことというのはぜひこの記録の先に、それこそ提案にしていけるところかなと思うので、ぜひ委員の皆様、日々のリサーチを怠りなくお願いして、「こういうのいいよ」というのをたくさんアンテナを張っていただいて、それが今後のいろいろな事業展開の中に生かしていけるようなものにできるといいのではないかなと思います。

○大畑委員 非対面の情報交換というのは、電波だけではないですよ。あまり簡単に画面に電波だけで、画像だけで、探そうすると、いろいろな問題があるけれども、やはり通じるもの、何かいろいろな手段があつていいはずだから、その範囲を広く考えたほうがいいですよ。

○議長 「読むのが大変だったよ」と言われても、読んでくれているのだなとなったりして、しゃべったら僕なんか遅いから、こんな長い動画になったら誰もついてきてくれないでしょうけれども、字ならそうやって追ってくれたというのはあったので、いろいろな工夫の仕方があるかとも思います。

非常に面白いお話を伺えたなと思うのですけれども、今日、本当に共有していく非常に大事な事実というのがあろうと思うので、ぜひ今後もよろしく願いいたします。

一旦この「生涯学習課の取組」についてのご報告と意見交換、以上にしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(4) 報告書の構成について

では、続けて、議題の4番目に入りたいと思います。お手元の資料の3を御覧ください。一枚ものの「会議記録の構成について(案)」というものです。こちら、4月に正副議長会を開催しまして、野川先生、それから事務局の皆さんにお諮りをしながらまとめてみたものなのですが、簡単にご説明をしたいと思います。

1番の「まとめの形式について」というところですが、社会教育委員の会議というのは、2年を1期として、その期ごとに会議のまとめを作ってきました。諮問があった場合には「答申」という形で、それから従来多かったものとしては「提言」とい

う形でまとめるということだったのですが、今期の場合は適切な形というのは、これまでも口頭でお話してきた「記録」あるいは「報告」というような名称と内容であったらどうかというのが、まず1番目の形式についての話。

それを基にしまして、2番目「構成案」というところですがけれども、「1) 全体構成」にあるように、初めにテーマと記録作成の趣旨というようなことを書いて、その後に記録、そして評価、資料というような形の構成ではどうかなどご提案したいと思います。

「はじめに」の部分は、テーマ、これも正確には前期といいましょうか、12期に相当していた2年間のところでオリンピック・パラリンピックを契機に、というところからスタートしながら、コロナが拡大して現在のテーマへ移ったということがありますので、その辺りの話というのを「はじめに」で書いたらどうかということです。

その上で、「記録」ですがけれども、カレンダーの日程や期間が、コロナが発見された2020年の2月から、この素案を作っていたときに2022年の3月だったので3月までになっていますけれども、まだ収束とは言えないので、まとめまでできる範囲の日付を入れたらどうかと思っています。

このカレンダーは先日、工藤委員さんがご報告くださったときに、非常に示唆に富むまとめ方をしてくださって、そのご報告の資料を下敷きにしながらカレンダーとして見えていくようなものができるといいのかなと思っています。

その上で、各担当課の記録として、これまでお話いただいていた各課、施設というところでのそれぞれの記録を並べていくということはどうかと思っています。

そして、「評価」というところですがけれども、今回の場合、その記録ということに重点を置くとする、個々に何かコメントをしていくというよりは、委員の皆様にはそうしたこれまでの各課の報告ということを踏まえて、自由な形でご提案、ご提言を頂く形のほうが、より共通点が鮮明になるのではないかなということで、記録とは別に設けてみたらどうかと思っています。

最後の「資料」というところは、カレンダーや記録のところに収まり切らないようなものということで、特徴的なチラシとか、何を入れるかもいろいろご意見頂けたらいいのかなと思っています。

そして、「2) 記録の具体内容」というところですがけれども、ここの詳細をたくさんご意見頂ければと思うのですが、それぞれの各担当課でこれまでお話しいただいてきた、できたこと、できなかったこと、それから新たに始めたこと、担当としての気づき、それからその他ということ、記録としてまとめていただくといいのではないかなと思っています。

そういう点から、最後の太文字の3番で「その他」というところですけども、留意点として、今期のこの会議のまとめは、記録の作成ということに非常に重きを置くとなると、委員としての私たち一人ひとりが何かを書くということ以上に、執筆に当たって、これまでお話しいただいた各担当課の協力が必須になるかと思えます。この会議として、ぜひその記録の作成にご協力をお願いしたいということを伝えたいとも思えますし、ぜひとも課長はじめ、事務局から強くご協力を仰げるようにしていければと思っています。

そのためには、共通の執筆のフォーマットというのも必要になると思えますし、どういう形でまとめていくと分かりやすい、伝わりやすいものになるかということについて、この先、ここでもんでいけたらいいのかなと思えます。

より具体的に言えば、そのカレンダーを始めて、先ほど佐藤係長のほうからもあったように、レイアウトやデザインというような編集能力も非常に大きな要素になるのではないかなと思えます。よく伝わるための工夫というところで、そういったお力も借りたい。僕らが身につけるといっても時間も限られているかと思えますので、いろいろな方たちの力を借りながら作っていきえるといいのではないかなと考えています。

抽象的な話し方になってしまいましたけれども、まず記録構成の提案の第1弾ということ。皆様からご意見頂ければと思えます。

○竹高委員 「提言」ではないと思うのですけれども、「記録」とも違うと思うのですよね。やはりこの4年間のコロナ禍の中でのことを記録と報告するだけではなくて、これから先にも何か起きたときに、こういう方向の考え方は必要ではないかという答えは出していくべきではないかと思うのです。ただ、「記録」とか「報告」というだけでもないし、「提言」と「記録」の中間の言葉というのがないのかなと思えますが、どうなのでしょう。

○議長 今日のお話を伺っていて、これを作っていたとき以上に、「評価」と書いた部分もとても重要だなというのを感じたところでした。「記録」そのものにも大きな意義があると思っていましたけれども、やはりそれを踏まえてどう思っているか、その思いは伝えたいというところは、もう1つ大事なところだなと改めて思ったところでした。

○竹高委員 その後からついてくる言葉は、皆さんがまとめたときに出てくる言葉でも何でもいいのかと思うのですが。やはり最初と最後につけられて、記録があつて報告できるというのがいいのではないかなと思えます。

○議長 ありがとうございます。「記録」とか「提言」というのはカテゴリーなので、中身の形としてはいかがでしょうか。

○副議長 今の竹高さんの意見からすると、「エピローグ」的なものを入れたらどうか

という話なのですかね。

○竹高委員 そうですね、自分たちがこの報告というかこの4年間のことをまとめて、いろいろな勉強したことも中に差し込んでいく中で、最終的に私たち社会教育委員の会議の中で今期こういうことを思ったということが、やはり「報告」というだけではなくて1つあるほうがいいのではないかなど。

○副議長 最終的なまとめだと「サマリー」みたいになってしまうのですが、それにもうちょっと「提言」的なものを入れるようになると、「エピローグ」。

○竹高委員 はい、そういうことですね。

○副議長 「続く」というような意味ですね。

○竹高委員 はい。

○副議長 そうすると、当然ここの「はじめに」のところには「プロローグ」をちゃんと入れて、どういうつながりから来たというものを入れると、これまでの流れがずっと続いていくかがわかりますね。

○竹高委員 やはり前期の説明をちゃんとしていかないといけないところで、「プロローグ」は必要だと思います。

○議長 これまでのこの社会教育委員の会議のまとめの作り方だと、「提言」で、委員が書き手ということでかなり宿題の多い会議だったかなと思うのですね。町によっては事務局が素案をかなりの部分作ってくださって、それでいいかどうかは別としてですが、ご意見という中で直すというようなスタンスもあって、葛飾は非常に人使いの荒いというか、いい意味で、協働が本当に中身で協働して作るというような働きがいのある会議だったと思うのですけれども、今期はやはり記録の部分というのは、あくまでも区がどう取り組んできたか。

○生涯学習課学び支援係長 事実ですよ。

○議長 はい。その部分はぜひお願いしたいと思うのですね。そこにやはり区民として私たちがどうそれを捉えたか、住んでいる身からして、こういうふうにとまとめたことというのは、まとめた者として甲斐があるかどうかというようなコメントで修正というか、もう少しこうしてほしいというような意見というのは出させていただいたほうがいいと思うので、ちょっと今期は、主客の逆転とは言いませんけれども、立ち位置を変えながらやったほうがいいかなと感じています。その辺はご了承いただければと思います。

○大畑委員 私もその教訓という形の中からどうやって表現していくかというのはあると思うのですけれども、すごく範囲を広くこの4年間でやったと思うのですね。多分今までの1期でいけば、1つのテーマの中で深くいろいろ検討されてやったのだけれども、この4年間2期に関しては広くいろいろな情報を、区がやろうとしている教育関係、社

会教育課に関することを広い範囲で受け止めているわけですから、その都度皆さん委員の意見もそこで上がっている。そういう意見が記録には残っていくのと、全体を通してもし行政のほうで何ができた、できなかったというものが出されたのであれば、それに対する評価を含めて委員の皆さんの意見を載せていく。そういう形で表現されるといいのかなという感じはしますね。

○議長 こんなに丁寧に議事録も作っていただいていることは、ご自身の発言もやはり記憶の中には埋もれていってしまう部分もあると思うのですが、改めてその記録と照らし合わせながら委員の皆さんがくださったご意見というのをきちんと掘り返してみると、そこからそのときの大事なご発言というの、このご意見のところに反映していけるのかなと思うので、ちゃんとこの議事録の財産として活用できるのかなと思っています。

いかがでしょうかね。まだ何か絵がないのでなかなか分かりにくい、イメージが共有しにくいところではあるのですが。

○竹高委員 多分今回のこのお話を聞かせていただいたことで、もう吸収する勉強のほうはストップだと思うので、この後は3年前からの情報を自分たちの中でまとめていく作業ですよ。

○議長 そうですね。そういう意味では次の議題の今後のスケジュールというところにも重なっていかうと思います。構成案としては、まず1回目の提案ということなので、もう少し分かりやすく何か工夫していったり、具体的な見え方の参考になるようなものも、次回にお示しできるようにしたいと思いますので、大きな方向性というところではご承認いただけたらなと思いますが、よろしいでしょうか。

(承認)

ありがとうございます。

では、それを踏まえての5番目「今後の会議の進行について」というところで、こちらは事務局からご説明いただく形でよろしいでしょうか。

(5) 今後の会議の進行について

○事務局 はい。資料4の「スケジュール案」を御覧いただければと思います。

今日が第8回の会議ということで5月20日ですけれども、次が6月17日に第9回の会議を予定しています。こちらは年に1回の社会教育関係団体への補助金の審議をしていただかなければなりません。5団体ございますので、時間を割いていただかなければならない形になります。

その後、今、議長のほうからご説明がありましたその記録なりの構成の検討をしていただく形になりましょうか。

7月15日には第10回の会議を予定しているのですが、現在、新小岩学び交流館と児童会館があるところに「にこわ新小岩」という新しい建物ができまして、今、地域の方を中心に内覧を行っているところです。ぜひ社会教育委員の皆様にも内覧していただけたらどうかと思ひまして、提案なのですが、会議時間の中で見ていただくということと、しかし、「にこわ新小岩」は中の集会室が使えないということなので、すぐ向かいにあります「たつみ集い交流館」のほうで集まっていたら協賛をしていただけたら、と思っています。

次が、8月19日、続いて、9月30日と10月28日ということです。

12月9日は、2年に1回、提言ができる少し前ぐらいに教育委員との懇談をやっていただいていますので、今期も、記録ができる少し前ぐらいに、教育委員と懇談会をしていただこうと思っております。この日は開始時間が30分早まります。

年が明けまして、1月20日、ほぼ最終回的な形で記録の確定をして、普及方法の検討も、この日からというよりもその前ぐらいから検討していただくと考えております。

その次は、仮に2月17日となっておりますが、まだ流動的です。どういう形で普及するかが決まりましたら、3月や、場合によっては4月以降に普及のためのシンポジウムを開催したこともありましたので、そういうことも含めてこの辺は日程的にも流動的になりますが、正副議長の会議でこのような日程を考えていただきましたので、提案したいと思います。

○議長 来月は社会教育関係団体の補助金の審査ということがありまして、この社会教育委員の大事な任務でもありますので、ご協力方、よろしく願いいたします。

今お話しいただいたとおり、今後はこの記録、報告の作成というところになってきますので、たくさん活発なご意見を頂いて、良い形でまとめられるようにと思います。構成案のバージョン2を出しますので、たくさんたたいていただければと思います。

先まで一応日付が入りましたので、ご予約を頂ければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

では、最後、議事の6というところですが、事務局のほうから何かありますか。

○事務局 今、話があった「にこわ新小岩」ですが、複合施設のため、正式オープンは7月19日で、その日に事業所など、例えば保健センターや子ども発達センターなどが動き出すのですが、集会施設の貸し館が始まるのは8月1日からなのです。

会議の日にちは、まだ正式にオープンしていないところで、お部屋としては使えないので、館内を見ていただいて、実際の協賛はたつみ集い交流館でやっていただくという

スタイルになります。

○議長 ありがとうございます。まだどんなところなのかなというのがまだ全然浮かんでないのと、名前も不思議過ぎて気になっているのですけれども、そういうことは当日分かるということですね。

次々回ということですので、行き方などはまたご案内をお願いいたします。

○事務局 はい、その辺はまたご案内します。

○議長 では、委員の皆様からは、何か募集とかご報告とか、ございますか。よろしいでしょうかね。

そうしたら、本日の議事はこれで以上となりますので、次回は6月17日ということでご参集をお願いいたします。

では、以上をもちまして本日の会議、終了したいと思います。どうもありがとうございました。